

□主な内容

【第 39 回 EST 創発セミナー in 姫路〔近畿〕の参加者募集中！】

2月26日(火)に兵庫県姫路市で「モビリティでよみがえる地方都市空間」をテーマに第39回 EST 創発セミナーを開催します。皆様のご参加をお待ちしています。

<http://www.estfukyu.jp/sohatsu59.html>

【COOL CHOICE 連携事業で鉄道・バス利用のスマートムーブのポスター等を掲出！】

http://www.mlit.go.jp/report/press/tetsudo04_hh_000070.html (鉄道)

<http://www.env.go.jp/press/106283.html> (バス)

目次

1. 寄稿(1)「環境的に持続可能な交通を目指して」(第 150 回)

●「移動制約者の持続可能な交通を支えるために」

【大同大学工学部建築学科土木・環境専攻 講師 樋口恵一】

2. 寄稿(2)「地方から全国に向けた情報発信！」(第 150 回)

●「持続可能なまちづくりと自動運転」

【みなと観光バス株式会社 代表取締役社長 松本浩之】

3. ニュース／トピック

●「COOL CHOICE」と鉄道が連携します!!～鉄道で移動をエコに～【国土交通省】

●COOL CHOICE 連携事業について(バス利用のスマートムーブ)【環境省】

●「平成 30 年交通関係環境保全優良事業者等大臣表彰」で 12 者を表彰【国土交通省】

●MaaS などの新たなモビリティサービスの全国展開を目指します～第 5 回「都市と地方の新たなモビリティサービス懇談会」の開催～【国土交通省】

●「IoT や AI が可能とする新しいモビリティサービスに関する研究会」中間整理を取りまとめ【経済産業省】

●「乗合バスの運行システムのナンバリング等に関するガイドライン」を作成～誰もが利用しやすい乗合バスを目指して～【国土交通省】

●2017 年度(平成 29 年度)の温室効果ガス排出量(速報値)について【環境省】

●モビリティウィーク&カーフリーデー日本アワード 2018 の結果発表【カーフリーデージャパン】

●2020 年オリンピック競技大会の期間中の大会輸送影響度マップを公開【東京都】

●家庭用使用済み食用油をバイオディーゼル燃料へリサイクル【仙台市】

- 国内鉄道会社初 グリーンボンド(個人向け無担保社債)を発行【小田急電鉄】
- EV での快適なドライブを支援するモバイルアプリ開発で協業【住友電工、米国 EV Safe Charge 社】
- どんな移動でも“マイル”がたまる MaaS アプリが登場【米国 Miles 社】
- 街路灯を EV 用充電器に低コストで改造するプロジェクトが進行中【ドイツ Ubitricity 社】

4. イベント情報

- 第 20 回地域バス交通活性化セミナー「観光二次交通のあり方と公共交通活性化」【2019/1/28】
- 第 39 回 EST 創発セミナーin 姫路〔近畿〕～モビリティでよみがえる地方都市空間～【2019/2/26】
- 地方創生シンポジウム「グリーンスローモビリティと桐生再生」【2019/1/29】
- 平成 30 年度地域公共交通活性化シンポジウム【2019/2/1】
- (自治体職員様向け)グリーンスローモビリティセミナー【2019/2/4】
- フォーラム「交通政策基本法の展開」(第 18 回)【2019/2/5】
- 低炭素杯 2019【2019/2/8】
- ITS セミナーin 滋賀おおつ【2019/2/14】
- 第 13 回ビジネス講座「人間中心の視点でのまちなか再生と交通」【2019/2/22】
- 第 13 回日本 ITS 推進フォーラム【2019/2/27】
- 第 9 回人と環境にやさしい交通をめざす全国大会 in 前橋【2019/3/9-10】
- 都市計画法 50 年・100 年記念シンポジウム(第 2 弾) 都市計画の領域と新展開 – 新たなフレームワークの構築に向けて –【2019/5/31】
- 第 14 回日本モビリティ・マネジメント会議(JCOMM)【2019/7/19-20】

5. その他

- 「グリーン経営認証」に関する情報は、専用ホームページへ
- エコ通勤優良事業所を認証登録しています！
- 交通環境学習(モビリティ・マネジメント教育)メールマガジンを発行しています！
- 交通・観光事業者によるカーボンオフセットの取組みを支援しています！
- 電動小型低速車に関する情報を掲載しています！
- 「運輸・交通と環境」を発行しています！
- 記事募集中！

1. 寄稿(1)「環境的に持続可能な交通を目指して」(第 150 回)

●「移動制約者の持続可能な交通を支えるために」

【大同大学工学部建築学科土木・環境専攻 講師 樋口恵一】

EST が目指すべき三つ【環境・経済・社会】の側面のうち、社会的な側面である移動制約者(高齢者・障害者)の持続可能な交通を目指すうえで改めて『教育』の重要性を感じている。

まず高齢者については、健康維持・生きがい維持のためにも公共交通を活用して、できれば複数人での活動を促す教育やマネジメントが肝要である。

愛知県豊田市の中山間地域を対象に高齢者の生きがい意識を調査したところ、後期高齢になっても前期高齢と同等の生きがい意識レベルを維持できている高齢者もみられた。一般的に人生の節目や年齢が高まると生きがい意識は低下するといわれているためその要因を分析しところ、移動手段に関連する要因として「バスや電車を使って一人で外出できる高齢者」、自動車の運転可否については「運転できない高齢者」が生きがい意識を維持できている傾向にある。個人活動よりも複数人で活動を行っている高齢者の認知機能の低下が抑制されていることが老年学分野の研究で明らかにされており、地域の福祉活動や趣味娯楽動を支える交通体系の構築が地域社会の持続に大きく寄与するであろう。

次に、障害者の移動に欠かせない福祉有償運送の担い手も不足しており、持続可能な交通を支えるには地域公共交通との連携が欠かせない。しかし、車椅子利用者が路線バスを利用するには車椅子をバス車両に固定しなければならない。乗務員は手動車椅子での研修は行っているもの多様化する電動車椅子の固定方法を認識しておらず固定に 5 分程かかるケースもある。また、UD タクシーにおいて車椅子利用者の乗車拒否等が相次ぎ、2018 年 11 月に国土交通省から「ユニバーサルデザインタクシーによる運送の適切な実施について」という通知がタクシー事業関連団体へ出された。

いずれも車両構造に起因するバリアであるためユニバーサルな車両の開発を望むと同時に、運行事業者においても障害者の生活実態に即した適切な教育課程を経る必要性も感じている。

2. 寄稿(2)「地方から全国に向けた情報発信！」(第 150 回)

●「持続可能なまちづくりと自動運転」

【みなと観光バス株式会社 代表取締役社長 松本浩之】

弊社はマイカーから公共交通への転換に取り組んでおり、EST の考えに少しでも近づくことができたと思っておりましたが、昨今の人手不足から円滑に事業継続していくビジネスモデルに大きな危機感を抱いております。そこで自動運転車両に興味を持ち、日本総合研究所を中心にした様々な企業と連携し、「神戸自動走行研究会」を三年前に立ち上げ神戸市北区筑紫が丘にて公道実証実験を展開してきました。概況は丘陵地を切り開いて作られたニュータウンに約 2,000 世帯、約 6,000 人が生活していますが、人口の 40%が 65 歳以上であり、5 年後には 50%に上る見込みです。典型的な 70 年代に開発されたニュータウンです。

弊社は 5 年前に当地区に営業拠点を設け、神戸の中心部である三宮への路線バスを運行しているバス会社です。当初は三宮へのアクセスの便利さから利用ニーズにマッチしていましたが、急速な高齢化に伴い、利便性重視から日々の生活に密着したコミュニティ活動に変遷しつつあることを肌で感じてきました。高齢化で免許返納制度活用、マイカーを手放し、移動の自由は制限されるが「安心・安全」に勝るものは無いとの考えで地域に根差した生活を選択するという事です。しかしながら、同地区内には坂道が多いことから徒歩での移動に苦痛を感じることも事実です。ラストマイル運行実現には低廉な導入費・運営コスト可能性を追求しております。また、住民の自助・共助による、近距離圏内移動サービスという日本総研のコンセプトから地域住民の日常生活としてのラストマイル交通のニーズを満たせるかを検証しております。全国各地の地域社会が抱える交通課題の解決に貢献するため積極的な展開しておりますが、技術的・法的課題が山積しております。車社会から公共交通に転換する意義深さ以上に困難に直面している人手不足は路線維持を求めている交通弱者に対して誰が弱きものに対し、責務を果たすのかを今後は真摯な取り組みとして議論していくステージに入ったと痛感しております。

3. ニュース／トピック

●「COOL CHOICE」と鉄道が連携します!!～鉄道で移動をエコに～【国土交通省】

今般、国土交通省が推進している、エコな鉄道をもっとエコにする「エコレールプロジェクト(※1)」と、環境省が推進している、低炭素型の「製品」「サービス」「ライフスタイル」など、温暖化対策に資するあらゆる「賢い選択」を促す新しい国民運動「COOL CHOICE(※2)」が、それぞれの取組みの普及啓発を図るため、合同でポスターを作成しました。今後、全国 105 の協力鉄道事業者 等の駅構内や電車内に掲出される予定です。

※1 エコレールプロジェクト: 鉄軌道事業者における省電力化・低炭素化に資する設備の導入を支援する事業

※2 COOL CHOICE: 温室効果ガスの排出量を削減するため、省エネ・低炭素型の製品への買換・サービスの利用・ライフスタイルの選択など、地球温暖化対策に資する「賢い選択」をしていこうという取組

http://www.mlit.go.jp/report/press/tetsudo04_hh_000070.html

●COOL CHOICE 連携事業について(バス利用のスマートムーブ)【環境省】

環境省では、関係省庁をはじめ様々な企業・団体・自治体等と連携しながら、低炭素型の「製品」「サービス」「ライフスタイル」など、温暖化対策に資するあらゆる「賢い選択」を促す国民運動「COOL CHOICE」に取り組んでいます。

その一環として、“「移動」を「エコ」に。”をテーマに、公共交通等、エコで賢い移動方法を選択し、CO₂ 排出量の少ない移動を推進する「smart move(スマートムーブ)」キャンペーンを展開しています。

公益社団法人日本バス協会と COOL CHOICE 連携事業として、スマートムーブを呼び掛けるポスター及びステッカーを全国約 300 の乗合バス事業者各社の関連施設及び車両内で掲出します。

<http://www.env.go.jp/press/106283.html>

●「平成 30 年交通関係環境保全優良事業者等大臣表彰」で 12 者を表彰【国土交通省】

国土交通省では、環境保全に関する取組みに顕著な功績があった事業者、事業所、団体に対して大臣表彰を行っております。平成 30 年は 12 者が受賞し表彰式が行われました。

http://www.mlit.go.jp/report/press/kanbo03_hh_000222.html

このうち、エコ通勤等部門では、会津オリンパス株式会社、福井県クルマに頼り過ぎない社会づくり推進県民会議、南太秦自治連合会及び京都市右京区役所が受賞しました。

http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/transport/sosei_transport_tk_000101.html

●MaaS などの新たなモビリティサービスの全国展開を目指します～第 5 回「都市と地方の新たなモビリティサービス懇談会」の開催～【国土交通省】

国土交通省では、MaaS(※)などの新たなモビリティサービスの活用により、都市・地方が抱える交通サービスの諸課題を解決することを目指し、日本型 MaaS の将来像や、今後の取組の方向性などを検討するため、有識者による懇談会を開催しています。

第 5 回懇談会を 12 月 13 日に開催し、これまでの議論の中間整理及び今後の検討課題について議論を行いました。

※MaaS(マース):“Mobility as a Service”の略。出発地から目的地までの移動ニーズに対して最適な移動手段をシームレスに一つのアプリで提供するなど、移動を単なる手段としてではなく、利用者にとっての一元的なサービスとして捉える概念

http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/transport/sosei_transport_tk_000089.html

●「IoT や AI が可能とする新しいモビリティサービスに関する研究会」中間整理を取りまとめ【経済産業省】

経済産業省では、IoT や AI の活用によって提供が可能となる新しいモビリティサービス(広義の MaaS:Mobility as a Service)を活性化させていくことが経済成長や産業高度化の観点から重要であるとの問題意識から、本年 6 月から「IoT や AI が可能とする新しいモビリティサービスに関する研究会」を開催し、有識者や企業との情報交換、意見交換等を進め、現状と課題の整理や今後の取組の方向性等について検討を重ねてきました。今般、これまでの検討の成果を中間整理として取りまとめました。

<http://www.meti.go.jp/press/2018/10/20181017005/20181017005.html>

●「乗合バスの運行システムのナンバリング等に関するガイドライン」を作成～誰もが利用しやすい乗合バスを目指して～【国土交通省】

国土交通省は、すべてのバス利用者にわかりやすいバスシステム案内を実現するためのガイドラインを作成し、乗合バスの利用環境の整備を促進します。新規に系統番号を導入する場合や、既存の系統番号の改良を行う場合に、「アルファベット+数字」又は「数字のみ」によって表現するなど、本ガイドラインに準拠することを推奨いたします。

http://www.mlit.go.jp/report/press/jidosha03_hh_000291.html

●2017 年度(平成 29 年度)の温室効果ガス排出量(速報値)について【環境省】

環境省と国立環境研究所は、今般、2017 年度の我が国の温室効果ガス排出量(速報値)をとりまとめました。2017 年度の温室効果ガスの総排出量は 12 億 9,400 万トン(二酸化炭素(CO₂)換算)で、前年度比 1.0%減(2013 年度比 8.2%減、2005 年度比 6.2%減)でした。

なお、運輸部門は約 2 億 1,300 万トンであり、前年度と比べて 0.9%減となっています。

<http://www.env.go.jp/press/106211.html>

●モビリティウィーク&カーフリーデー日本アワード 2018 の結果発表【カーフリーデージャパン】

一般社団法人カーフリーデージャパンは、モビリティウィーク&カーフリーデー2018において、移動に関する様々な問題を考える機会を市民へ提供し、新しい都市交通政策の展開を進展させるため、まちづくり貢献賞、イベント・プロジェクト賞、市民向けアピール賞、カーフリーデーベストショット賞を決定・発表しました。

<https://blog.goo.ne.jp/cfdjapan/e/14e7bbc78824eae508c064604b878ff6>

●2020年オリンピック競技大会の期間中の大会輸送影響度マップを公開【東京都】

2020TDM推進プロジェクトは、東京2020オリンピック競技大会の期間中において、何も交通対策を行わなかった場合に、道路や鉄道等に生じる影響についてまとめたマップを公開しました。

今後、今回提示した交通環境を改善すべく、交通需要マネジメント(TDM)、交通システムマネジメント(TSM)、公共交通輸送マネジメント等の交通対策の検討を進め、大会輸送の円滑化と経済活動や都市活動の両立が図られる様、取組を進めていきます。

都や2020TDM推進プロジェクト運営事務局では、セミナーや相談会を適宜実施することに加えて、重点取組地区などでコンサルタント派遣など行ってまいります。企業の皆様には、これらの情報をもとに、自社の活動への影響把握や、大会時に発生し得る混雑の回避策などの行動計画の作成に活用いただきたいと考えています。また、一般の方々にも、大会期間中の道路や鉄道の利用を考える際に、参考としていただけますようお願い申し上げます。

<https://2020tdm.tokyo/map>

●家庭用使用済み食用油をバイオディーゼル燃料へリサイクル【仙台市】

家庭から出る使用済み食用油は「バイオディーゼル燃料(BDF)」等として再利用ができる立派な資源です。

仙台市では、家庭から出る食用油のリサイクルを促進するため、家庭用使用済み食用油のリサイクル事業を実施しています。

回収するのは、サラダ油、ごま油、オリーブオイルなど、家庭から出る液状の油で、市内12カ所の生協で回収を行っています。

<http://www.city.sendai.jp/shigenkasuishin/kurashi/machi/genryo/genryo/abura.html>

●国内鉄道会社初 グリーンボンド(個人向け無担保社債)を発行【小田急電鉄】

小田急電鉄株式会社は、国内鉄道会社初となるグリーンボンド(※)の発行を決定しました。

調達した資金は、車両の更新や輸送インフラの増強等の鉄道事業に充当し、環境に配慮した鉄道サービスのさらなる充実を図ります。グリーンボンドとしての適格性については、第三者評価機関であるサステナリティクスよりセカンドパーティ・オピニオンを取得しています。

※グリーンボンド: 地球温暖化をはじめとした環境問題の解決に資する資金を調達するために発行される債券

<https://www.odakyu.jp/news/o5oaa1000001f1jy-att/o5oaa1000001f1k5.pdf>

●EVでの快適なドライブを支援するモバイルアプリ開発で協業【住友電気、米国 EV Safe Charge 社】

住友電気工業株式会社とEV Safe Charge 社は、電気自動車(EV)のドライバーに最適な長距離ドライブを提案するモバイルアプリ開発における協業を発表しました。

モバイルアプリ「EV Safe Charge App powered by Sumitomo Electric」は、従来のようなEV充電器の位置検索のみならず、道路の渋滞状況や傾斜、気候などのさまざまな条件を考慮し、EVを充電する最適なタイミングをドライバーに提示することで、目的地にたどり着く途中でEVの電池残量がなくなるのではないかとドライバーの不安を緩和するのに役立ちます。また、協賛するホテル・レストランからのお得な情報や特別な旅行プランの提案など、快適かつ楽しいドライブをサポートする機能も搭載する予定です。両社はこれらのアプリ機能の車載化に向けて、自動車メーカーと協力する方向で動き出しています。

<https://sei.co.jp/company/press/2019/01/prs004.html>

●どんな移動でも“マイル”がたまる MaaS アプリが登場【米国 Miles 社】

シリコンバレーの中心都市であるサンノゼで2016年に設立されたスタートアップであるMiles社は、徒歩や自転車、クルマ、電車などを使ったあらゆる移動が自動的に“マイル”に変わるアプリ「Miles(マイルズ)」を、米国で2018年7月から提供開始しました。移動手段を自動で判別し、商品やクーポンなどと交換できる“マイル”を付与する仕組みです。徒歩やランによる移動は1キロメートル当たり10マイル、自転車は5マイル、電車やバス、ボートは3マイル、ライドヘイリング、カープールは2マイル、クルマは1マイル、飛行機は0.1マイルと、より環境負荷が低い移動手段に多くのインセンティブを付与しているのが特徴です。

<https://www.getmiles.com/>

●街路灯をEV用充電器に低コストで改造するプロジェクトが進行中【ドイツ Ubitricity 社】

ベルリンの新興企業 Ubitricity 社は1月10日、ベルリンで、最大1000台の街路灯を活用した電気自動車(EV)用の充電ステーション化プロジェクトが進行中であると発表しました。

このプロジェクトはドイツ経済エネルギー省(BMWi)の支援による試験的事業で、上記の街路灯に加え、さらに住宅用建物や駐車場に600個、同様のシステムが設置される予定です。

同社の、既存の街路灯を充電ステーションに低コストでアップグレードすることを可能にする充電ソリューションは、モバイル課金システムと充電器から構成されていて、既にロンドンで同システムを受注しています。

<https://www.ubitricity.com/en/unternehmen/newsroom/siemens-ubitricity-southwar-k-gulcs-rollout/>

4. イベント情報

●第20回地域バス交通活性化セミナー「観光二次交通のあり方と公共交通活性化」

日時:2019年1月28日(月)13:30~17:30

場所:ホテルスカイタワー宮崎駅前

主催:国土交通省九州運輸局、宮崎県、エコモ財団

http://www.ecomo.or.jp/environment/bus/20th_seminar.html

●第39回EST創発セミナーin姫路〔近畿〕～モビリティでよみがえる地方都市空間～

日時:2019年2月26日(火)13:30~16:50

場所:姫路キャスパホール

主催:姫路市、国土交通省 近畿運輸局・神戸運輸監理部、EST普及推進委員会、エコモ財団

<http://www.estfukyu.jp/sohatsu59.html>

●地方創生シンポジウム「グリーンスローモビリティと桐生再生」

日時:2019年1月29日(火)14:00~17:30

場所:土木学会講堂

主催:公益社団法人土木学会 コンサルタント委員会 地方創生小委員会

<http://committees.jsce.or.jp/kenc06/node/14>

●平成30年度地域公共交通活性化シンポジウム

日時:2019年2月1日(金)13:00~16:30

場所:大阪歴史博物館講堂

主催:国土交通省近畿運輸局

<http://www.tb.mlit.go.jp/kinki/content/12pdf18-214.pdf>

●(自治体職員様向け)グリーンスローモビリティセミナー

日時:2019年2月4日(月)14:00~16:30

場所:広島コンベンションホール 1F 広島テレビホール

主催:復建調査設計株式会社、一般財団法人ひろぎん経済研究所

<http://www.fukken.co.jp/news/13474/>

●フォーラム「交通政策基本法の展開」(第20回)

日時:2019年2月5日(火)18:30~20:40

場所:中央大学駿河台記念館 570教室

主催:(特非)エコネルギーによる地域交通システム推進協会

http://www.yasashii-transport.net/n_doc/forum_20190205.pdf

●低炭素杯 2019

日時:2019年2月8日(金)10:00~16:30

場所:カルッツかわさき

主催:低炭素杯実行委員会

<https://www.zenkoku-net.org/teitansohai/>

●ITS セミナー in 滋賀おおつ

日時:2019年2月14日(木)13:30~18:00

場所:ピアザ淡海(滋賀県立県民交流センター)

主催:東京大学生産技術研究所 次世代モビリティ研究センター(ITS センター)

<http://www.its.iis.u-tokyo.ac.jp/ja/seminar/>

●第13回ビジネス講座「人間中心の視点でのまちなか再生と交通」

日時:2019年2月22日(金)15:00~17:00

場所:関東運輸局会議室

主催:国土交通省関東運輸局

http://www.tb.mlit.go.jp/kanto/koutuu_seisaku/business/curriculum/leaflet_2018_7.pdf

●第13回日本 ITS 推進フォーラム

日時:2019年2月27日(水)10:00~17:30

場所:メルパルク東京 5F 瑞雲の間

主催:(特非)ITS Japan

http://www.its-jp.org/katsudou2014/tabid_150/its_forum13/

●第9回人と環境にやさしい交通をめざす全国大会 in 前橋

日時:2019年3月9日(土)~10日(日)

場所:前橋テルサ、群馬会館

主催:「人と環境にやさしい交通をめざす全国大会 in 前橋」実行委員会

<http://zenkoku9th.starfree.jp/>

●都市計画法50年・100年記念シンポジウム(第2弾) 都市計画の領域と新展開 ―新たなフレームワークの構築に向けて―

日時:2019年5月31日(金)12:30~15:10

場所:東京大学(弥生講堂)

主催:(公社)日本都市計画学会

<http://www.cpij.or.jp/com/50+100/1st20181117.html>

●第14回日本モビリティ・マネジメント会議(JCOMM)

日時:2019年7月19日(金)~20日(土)

場所:石川県金沢市 石川県立音楽堂

主催:(一社)日本モビリティ・マネジメント会議

<https://www.jcomm.or.jp/convention/>

5. その他

- 「グリーン経営認証」に関する情報は、専用ホームページへ

<http://www.green-m.jp>

- エコ通勤優良事業所を認証登録しています！

http://www.ecomo.or.jp/environment/ecommuters/ecommuters_top.html

- 交通環境学習(モビリティ・マネジメント教育)メールマガジンを発行しています！

配信申込はこちらから

<http://www.mm-education.jp:80/magazine.html>

- 交通・観光事業者によるカーボンオフセットの取組みを支援しています！

http://www.ecomo.or.jp/environment/carbon_offset/carbonoffset_system.html

- 電動小型低速車に関する情報を掲載しています！

http://www.ecomo.or.jp/environment/nev/nev_top.html

- 「運輸・交通と環境」を発行しています！

(日本語版)

<http://www.ecomo.or.jp/environment/unyukotsutokankyou/index.html>

(英語版)

<http://www.ecomo.or.jp/english/tej.html>

- 記事募集中！

本メールマガジンへの掲載記事を募集中です。

EST、または「交通と環境」に関連する取組みや話題、催し物の案内等を事務局までお寄せください。 → E-mail: magazine@ecommo.or.jp (担当: 熊井、中道)

発行: 環境的に持続可能な交通(EST)普及推進委員会事務局

(公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団)

配信申込、バックナンバー閲覧はこちらから

<http://www.estfukyu.jp/mailmagazine.html>

配信停止はこちらから

https://p.bmb.jp/bm/p/f/tf.php?id=mail_ecomo

EST ポータルサイト: <http://www.estfukyu.jp/>